

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズ西舞子音楽堂児童発達支援事業所			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 3日 ~			2026年 1月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	2025年12月3日 ~			2026年 1月13 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5領域活動のプログラムを基盤に、利用者様とのアセスメント、モニタリング等を通して個別支援計画を作成し、一人ひとりの特性に応じた細やかな支援の充実を強化しています。	衛生面（手洗い、消毒）、食事マナー、挨拶、トイレトレーニング（排泄時の支援）、視覚（絵カード、パズルなどを使った支援によるひらがな、カタカナに親しむ取り組み、毎月のカレンダー製作では、日付、曜日の概念の形成、ハサミやのりなどの用具を安全に使い、手や指先の可動に繋がる取り組みなど、日常生活の自立に向けた支援を意識しています。	こちらの取り組みをご家族にお伝えし、ご家庭でも継続した支援が必要な場合は、無理のない範囲で取り組んでいただけよう、日々ご家庭との連携、調整に努めています。日頃から職員間で話し合える風通しの良い場作りに努め、児童一人ひとりの特性を正しく理解し、児童の気持ちを尊重した支援が行えるよう心掛けます。
2	音楽療法士やプロのミュージシャンによる、歌や楽器演奏（ジエンペ）、ダンス、ゲーム等、豊富な音楽活動の場を設けています。歌の活動では、発語、発声に繋がり、声量のコントロールを支援します。楽器演奏では、様々な楽器に触れることが出来、表現の幅を広げることに期待出来ます。	手遊び、リトミック、平均台、マットなどをを使ったサークル遊びなど、手や体全体を使ったバランス感覚の成長を意識して支援しています。児童のリクエストや季節の曲を取り入れ、ペーパークラフトや絵本などを使い、活動が無理なく楽しいものになるよう工夫しています。ルールはスマートルールで理解に繋がるよう意識しています。	インクルージョンの視点を持ち、児童一人ひとり特性は違つても、集団音楽活動を楽しみ参加し活躍できるプログラム作りを、日頃から関わる職員で考え取り組んでいます。
3	児童発達支援の多機能型であり、児童の成長を長期的に見守り支援することができます。また幅広い年齢の児童が同じスペースで過ごすことで年上の児童との関わりによるミュニケーション能力の向上、また小学校入学以後がスムーズに移行できることが期待できます。	周囲の人と安定した関係を形成し、情緒が落ち着いて過ごせるよう見守ります。見立て遊びやごっこ遊びから、並行遊び、共同遊びへと移行出来るよう支援します。音楽活動では、年上の児童との関わりを設け、コミュニケーションの促進に繋がる支援を意識しています。	年代や特性が異なる児童を同時に支援するため、児童が混乱しないように、また児童が年上の児童と一緒に安心して過ごせる場所であるよう、職員の専門的な知識とスキルアップを高め支援していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われる こと ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等の交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会があまりない。	相互に交流の必要性や要望がなかったため、このような機会はありませんでした。	相互に可能かどうか連携を取りながら必要性を確認しつつ、必要であれば相談しながら進めています。
2	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援、きょうだい同志で交流する機会を設ける等の支援が積極的に行われていない。	ごきょうだいのご利用できようだい同士の交流の機会はありますが、父母の会、保護者同士の交流などの家族支援、兄弟向けのイベントなどのご家族の参加されるきょうだいへの支援の開催は行われていないです。	ご要望など確認を取りながら、現状に応じて機会の検討をしていきます。季節のイベントを通して無理のない交流の機会を継続して設けていきます。
3	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける等の機会がほとんどない。	児童発達支援センターとの連携する事案やきっかけがほとんどなかったためと考えられます。	日頃から個々の事案をよく観察し、必要に応じて児童発達支援センターと連携を図り、スーパーバイズや助言を受けることが出来る体制を整えます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	キッズ西舞子音楽堂児童発達支援事業所
------	--------------------

公表日 2026年1月26日

利用児童数 1

回収数 1

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	1					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1					
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。				1		
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレン特訓等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1					
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができるていると思いますか。	1					
保護者への説明等	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。				1		
	19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1					
	20 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。				1		

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。				1	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1				
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	1				
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	1				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		キッズ西舞子音楽堂児童発達支援事業所				公表日	2026年1月26日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		広くて伸び伸びしと安全に活動するスペース環境を整えている。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		必要に応じて個別対応出来るように努めている。お互いに連絡を密に取り補い合っている。		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		当日の予定をボードなどに分かりやすく書き、確認しながら行動し、児童の状況に合わせた形を行っている。隣の就労施設やカフェと連携を取り、エレベーター使用等対応している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		環境整備を行い、危険な箇所の確認をしている。日々の清掃や消毒を心掛けている。高さ違いの椅子を常備している。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	2	個別の部屋がないので必要な児童には、職員が近くで対応している。パーテーションを利用することで可能にしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		送迎後は1日の動きを振り返り、業務改善に努めている。パート職員も含めて情報共有していくことが必要である。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		職員全員で評価表の意見を共有し対応している。また送迎時など保護者の意見などを聞き、その都度対応している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		職員間で意見出来るように考え、意見などは職員間で共有するように努めている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3	イベント時等で評価をいただくことがある。	第三者による外部評価は受けていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		音楽堂主催の感染症や虐待防止などの研修を行っている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		HPに支援プログラムを掲載している。個後の利用者に対応できるプログラムに努めている。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		日々の児童の行動や保護者、相談支援員などの情報を分析し、計画作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		職員などと共に理解のもと、個別支援計画を作成している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		職員間で個別支援計画の支援内容を確認しながら支援を行っている。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		日々の行動で得た情報を職員間で共有しながら日々の活動に努めている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		5領域を踏まえ、支援内容を作成し、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」を取り入れ具体的な支援内容に努めている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		職員間などで話し合い(ミーティング)プログラムの立案を行っている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		前回のプログラムを検証確認しながら対応している。		
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		5領域の内容を確認しながら集団活動で他者との関わり合い時間を設けている。		

	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		常に話し合い確認を行っている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		ケース入力時に話し合い、当日の子どもの様子や行動を確認し、必要に応じて今後の対応を行っている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		記録（ケース）を行っており、振り返りをしている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		半年以内に「モニタリング」を行っている。	
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		要望があれば、子どもの状況をよく理解した職員（管理者）が参画している。	
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		各機関と連携出来るように取り組んでいる。子ども園や市の保健所からの指導等で連携の支援に努めている。	
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3		送迎時に情報共有を行い、園での状況や音楽室での取り組みに繋げるよう努めている。送迎時に少しでも多くの情報を交換させて頂くよう心掛けている。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3		必要に応じて対応できるよう努めている。	
	(28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3			
保護者への説明等	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4			
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		送迎時に気が付いたこと、気になったことを伝え面談時でも伝えている。	
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	2	家族から困りごとや相談等は都度対応している。	
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に行なっている。新制度に変更の際そ の都度行っている。	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		面談などで保護者の意向に沿った支援計画を作成している。	
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		計画を説明しながら同意を得ている。	
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		保護者に寄り添いながら面談や必要な助言を行っている。ご要望があれば可能な限り対応に努めている。	
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		4	保護者より希望される方がいないので行っていない。	
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		意見や要望があった場合、出来る限り対応している。事業所、全体で考慮し、その都度対応を工夫している。	

	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	2	HPで活動報告は行っているが、SNSは個人情報観点から行っている。公式ラインの利用を行っている。	
	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報は常に気を使い注意している。	
	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		意思表現が難しい児童には視覚支援による情報伝達等に努めている。	
	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	1	カラフルフェスティバルなどの地域のお祭りに参加する機会を設けている。学校の先生が来所されることがある。	
非常時等の対応	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		緊急避難マニュアル、感染症マニュアルなどを作成している。	
	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		BCPを作成し、訓練などを行っている。	
	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		保護者からの情報で投薬や発作などの情報を共有している。	
	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	1	契約時に保護者から情報を得ている。現時点では対象者はいない。	
	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			
	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3			
	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハットを行い再発防止に向けた方策を検討し共有している。	
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待防止のための研修を行っている。	
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2	2		研修等により、身体拘束の適正化を行っている。現時点では対象者がいない。